

がん療養者とその家族への支援に関する研究

看護学科（成人看護学）

は せ べ み き
長谷部 美紀

● 連絡先

TEL：054-202-2942

E-Mail：m.hasebe@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

がん，療養生活，家族支援



悪性新生物（以下がん）は日本人の2人にひとりが罹患する病気です。がんの罹患率は年齢とともに上昇し、治療として手術を受ける高齢者が増えています。加齢とともに身体機能や認知機能が低下している高齢者の多くは、術後の回復過程で援助を必要とします。なかでも大腸がんで人工肛門（以下ストーマ）を造設した高齢者は、ストーマケアをするためにさまざまな困難を抱えています。自分でストーマケアができない時は家族の支援が必要ですが、家族も身体的・心理的・社会的な負担を抱えています。そこでストーマ造設後の高齢者とその家族が、生活へ順応していく過程における訪問看護師の支援に関する研究に取り組み、看護実践への示唆を得ました。現在は、壮年期のがん療養者とその家族への支援に関する研究に取り組んでいます。

高齢ストーマ保有者と家族への訪問看護実践

療養生活開始期

- 【ストーマケアの実施状況と阻害要因を把握する】
- 【家族の担うストーマケアと生活援助の状況を観察する】
- 【家族との距離を推し量り対話を重ね関係性をつくる】
- 【高齢ストーマ保有者と家族との情緒的関係性を把握する】

療養生活継続期

- 【ストーマケアを続けるための困難に気づき対処を促す】
- 【訪問経過で起こる排泄物の漏れに24時間対処する】
- 【家族の情緒的関係性を柔軟に捉え変化を促す】
- 【家族のストーマケアへの意欲を引き出し対処を促す】
- 【家族の心理的負担を考慮しストーマケアを支える】

長谷部美紀，富安眞理：高齢ストーマ保有者とその家族の療養生活への順応過程を支える訪問看護実践，日本在宅ケア学会誌，26(1)：111-119（2022）より著者作成

アピールポイント

がん療養者とその家族への支援に関する研究に取り組んでいます。